

Seiichi
Kataoka

日本の政治家

片岡清一

かたおか せいいち

物語





1 1 刻苦勉勵から中央官僚へ

片岡清一は、明治44年(1911年)7月23日、富山県東礪波郡苗加村(現:砺波市苗加)に生まれる。

野村家は兄弟が多く、中学校へ進学できる見込みは全くなかった。

これを見かねた地元の名士は「農業を手伝うなら中学校へ出してあげよう」と申し出ます。

そこで、清一は大喜びをし農作業を手伝いながら勉強をするのである。

ついに、東京帝国大学法学部に進学し、高等試験行政科に合格し、内務省(現:総務省)へ入省します。

大学在学中に片岡家を継いだ彼は、野村姓から片岡姓に変わっています。

昭和10年(1935年)4月、内務省(現:総務省)に入省した片岡は、栃木県教育課長就任を振り出しに、戦前は内閣情報部書記官などを歴任し、戦後は、警視庁警備第一部長、兵庫県警察本部長などを歴任しました。

2 2 故郷(砺波市)の市長から衆議院議員へ

昭和41年(1966年)8月1日の夕方、幼なじみであった川辺俊雄氏(後の砺波市長で、当時は砺波市議)から、次のような連絡があった。

「大井市長が病気で引退する。後任の市長としてあなた(片岡氏)を推薦することに満場一致で決まった」という電話であった。

知事を目指す片岡氏であったが、郷里の人々の説得により砺波市長となった。

片岡清一市長は在任中、「出町都市計画の推進」「大砺波圏共同開発推進協議会の創立」「砺波市体育館の建設」等に尽力されました。



3 3 国会議員として活躍

同じ頃、地元の大物代議士松村謙三が勇退されたので、片岡氏が後継者に指名されましたが、一度落選した後、昭和47年(1972年)の総選挙で初当選を果たした。昭和62年(1987年)12月、竹下改造内閣で片岡氏は郵政大臣に推挙された。

常に質素な活動にこだわり、利益誘導に対しては、厳しい考えを持っていました。こうした片岡の政治姿勢に人々は共鳴しました。

日本の政治家

片岡清一氏

かたおか せいいち

歴史資料

片岡清一物語

Seiichi Kataoka's Story

片岡清一

明治44年(1911年)7月23日～
平成11年(1999年)2月26日

日本の代表的な政治家として活躍(富山県砺波市長、自由民主党衆議院議員、郵政大臣等)

経歴概要

- 生年月日 ● 明治44年(1911年)7月23日
- 出生地 ● 富山県東砺波郡苗加村(現:砺波市苗加)
- 没年月日 ● 平成11年(1999年)2月26日(満87歳没)
- 出身校 ● 富山県砺波中学
東京帝国大学(現:東京大学)
- 前職 ● 内務省官僚
- 所属政党 ● 自由民主党(中曽根派に属す)
- 称号 ● 従三位 勲一等瑞宝章

砺波市長

昭和41年9月1日～
昭和44年11月10日

第49代郵政大臣

[内閣]
竹下改造内閣
昭和62年(1987年)12月

[任期]
昭和63年(1988年)12月27日
平成元年(1989年)6月3日

衆議院議員

- 選挙区 ● 富山県第2区
- 当選回数 ● 6回
- 任期 ● 昭和47年(1972年)12月11日～平成2年(1990年)1月24日

片岡清一の著書:『バカ正直の効用』より

日本の政治家

片岡清一氏

かたおか せいいち

砺波市からの要請

昭和41年8月1日、夕食後、家でくつろいでいると、郷里の砺波市議会議員の川辺俊雄氏から「現市長が病気で勇退されるので、ぜひ出馬してほしい」との電話要請があった。

自分は「我が国の交通安全に大いに寄与したいと張り切っているところなので、市長選に出るなどもっての外」と堅く断ったが、多くの諸先輩からも「ぜひ出てください」と強く要請された。

また「郷土の人たちの熱心な支持もあり、有り難いことである」とも思い、出馬の決断をする。無競争の当選となった。

市長挨拶での訓示

次の三つの観念を施政の基本姿勢として仕事をしてほしいと要望した。

1. 透徹した使命感
2. 正しい奉仕観
3. 確固たる責任感

市政構想と実績

東京から乗り込んできた新市長に対する、三万五千の市民は、大きな期待を持っていた。そこで、

「大砺波圏建設の構想を市政の基盤に据えた」のである。その基盤の上に、「農工商一体の明るい住みよい郷土づくり」に邁進することを公約した。

1. 近代農業の基盤づくりである圃場整備事業の推進
2. 交通網の整備と市街地商店街の都市開発事業の発足
3. 兼業農家の働き場を確保するための、公害のない工場の誘致
4. 充実した教育環境を創り出すための小中学校の合併統合
5. 市民の体育振興と健康増進に資するため大体育館の新築
6. 社会福祉推進のための社会福社会館の新築
7. ゴミ焼却炉の移転改築
8. 市民レクリエーションの場の新設
9. 市の特産物であるチューリップの生産振興
10. 観光資源とする公園、その他観光施設の充実整備

これらの諸計画実施については、文字通り全身全霊を打ち込んで頑張り通した。郷土のためという張り合いがあったので、多忙ではあったが、楽しい毎日であった。(市長時代を振り返って)

片岡清一君を励ます大集会



「昭和60年1月26日(土) 片岡法務委員長を囲む大集会盛会」

郵政大臣就任



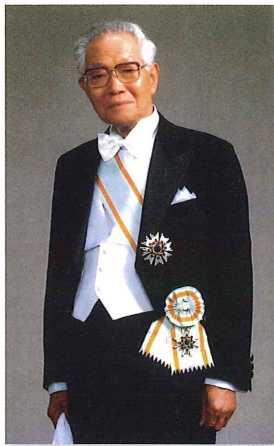
「平成元年3月5日 片岡郵政大臣初帰郷」

誠実一筋に生きた
片岡清一氏の
年譜

歴史資料

片岡清一物語

Seiichi Kataoka's Story



明治 Meiji

44年(1911年)

7.23 ● 富山県東砺波郡東野尻村苗加805番地
(現:砺波市苗加)
野村覚右衛門・たかの五男として生まれる

大正 Taishou

7年(1918年)

4. ● 東野尻村尋常小学校入学

昭和 Showa

4年(1929年)

3. ● 富山県砺波中学校卒業
4. ● 第四高等学校文科乙類入学
● 片岡家の養子となる

7年(1932年)

3. ● 第四高等学校文科乙類卒業
4. ● 東京帝国大学法学部政治学科入学

10年(1935年)

3. ● 東京帝国大学法学部政治学科卒業
4. ● 内務省に入省(就職)

14年(1939年)

5. ● 内閣情報部書記官

17年(1942年)

7. ● 内務事務官

19年(1944年)

3. ● 勲六等瑞宝章受賞(栃木県教育課長)

21年(1946年)

7. ● 青森県経済部長
10. ● 青森県警察部長

23年(1948年)

3. ● 国家地方警察大阪府警察長

27年(1952年)

4. ● 国家地方警察東京都警察長

30年(1955年)

11. ● 兵庫県警察本部長

35年(1960年)

7. ● 財団法人全日本交通安全協会専務理事

37年(1962年)

10. ● 道路安全国際会議出席、欧米13カ国視察

41年(1966年)

9. ● 富山県砺波市長当選
● 財団法人全日本交通安全協会顧問

44年(1969年)

6. ● 自由民主党に入党
11. ● 富山県砺波市長を辞任
12. ● 衆議院議員選挙に初出馬・落選

45年(1970年)

3. ● 日中覚書貿易交渉団員として松村謙三先生とともに中国を訪問

誠実一筋に生きた
片岡清一氏の
年譜

歴史資料

片岡清一物語 Seiichi Kataoka's Story

昭和 Shouwa

46年(1971年)

2. ● 日中党書交渉団長として中国を訪問

47年(1972年)

12.11 ● 衆議院議員初当選
● 衆議院地方行政委員会委員
● 衆議院交通安全対策委員会委員
● 自由民主党国会対策委員会委員

48年(1973年)

7. ● 衆議院物価対策特別委員会委員
10. ● アラブ友好議員連盟中東視察団副団長として中東地方を視察



49年(1974年)

1. ● エジプト政府の招待によりエジプト視察
9. ● 南米諸国政治経済事情を調査してアメリカ、南米諸国を視察
12. ● 衆議院交通安全対策特別委員会理事
● 衆議院農林水産委員会委員



50年(1975年)

8. ● 衆議院東南アジア視察団団員として、東南アジア諸国を視察

51年(1976年)

2. ● 衆議院農林水産委員会理事
12. ● 衆議院議員当選(2回目)

52年(1977年)

8. ● 日印友好議員連盟訪印使節団団員として印度を視察

53年(1978年)

1. ● 農・畜産物輸入自由化問題で米国訪問
3. ● 自由民主党農林部会農業機械に関する小委員会委員長
9. ● 育峰会訪中団員として中国を訪問
12. ● 農林水産政務次官就任



54年(1979年)

10. ● 衆議院議員当選(3回目)
11. ● 農林水産政務次官退任

55年(1980年)

4. ● 自由民主党訪中視察団団長として中国訪問
6. ● 衆議院議員当選(4回目)
7. ● 自由民主党国会対策副委員長就任
9. ● ヨーロッパ各国訪問

誠実一筋に生きた
片岡清一氏の
年譜

昭和 *Shouwa*

56年(1981年)

12. ● 自由民主党人事局長就任

57年(1982年)

2. ● 自由民主党選挙制度調査会会長代理
● 自由民主党農林部会畜産物物価対策小委員会委員長

11. ● 中曽根内閣 成立

12. ● 自由民主党総務に就任

58年(1983年)

12. ● 衆議院議員当選(5回目)
● 第二次中曽根内閣 成立
● 衆議院内閣委員長に就任

59年(1984年)

12. ● 衆議院法務委員長に就任

60年(1985年)

1. ● 自由民主党政務調査会審議委員に就任

61年(1986年)

7. ● 衆議院議員当選(6回目)
● 第三次中曽根内閣 成立
11. ● 自由民主党総務会副会長に就任

62年(1987年)

6. ● カナダ・ケベック州、モントリオール市・名誉市民に推挙される

63年(1988年)

12.27 ● 竹下改造内閣が成立
● 郵政大臣に就任

平成 *Heisei*

元年(1989年)

6.3 ● 郵政大臣を退任
● 自由民主党政務調査会審議委員に就任
11. ● 勲一等瑞宝章に叙せられる

2年(1990年)

1.24 ● 衆議院解散により、議院任期終了

5年(1993年)

6. ● 東京富山県人連合会ふるさと賞受賞

6年(1994年)

4. ● 富山県砺波市の名誉市民の称号を受ける

11年(1999年)

2.26 ● 享年88歳にて死去



Seiichi
kataoka